（↑各原稿の１頁目のみテキストボックス（線無し，塗りつぶし無し）で挿入する．Times New Roman，10pt，Italic

（↓邦文題目：MS ゴシック，12 pt，Bold にしない，用紙上端より 41 mm あける）

第 45 回日本熱物性シンポジウム 講演論文執筆要綱

（↓英文題目： Times New Roman，11 pt，Bold，1 行あける）

MANUSCRIPT PREPARATION FOR THE 45TH JAPAN SYMPOSIUM ON THERMOPHYSICAL PROPERTIES

（↓著者名（所属略称），講演者に○印，MS 明朝，10 pt，1 行あける）

○長岡太郎（長岡技科大）　新潟花子（長岡技科大院）
○Taro NAGAOKA* and Hanako NIIGATA**
* Department of Mechanical Engineering, Nagaoka University of Technology, Kamitomioka, 940-2188, Japan
** Graduate School of Science and Engineering, Nagaoka University of Technology, Kamitomioka, 940-2188, Japan
Corresponding author: Taro Nagaoka, E-mail: *****@nagaokaut.ac.jp

（↑Times New Roman，10 pt，1 行あける）

Abstract should be written in single-spaced style using 9-point Times New Roman. The length of the abstract should be approximately 15 - 20 lines. ----------
---

（2 行あける）

1. 緒言（←MS ゴシック，10 pt，Bold にしない）

本執筆要綱は，第 45 回日本熱物性シンポジウムの講演原稿に適用するものである．本要綱で指定のないものについては，会誌「熱物性」の原稿執筆の手引きによる．（↑本文，MS 明朝，9 pt）

2. 原稿

2.1 ファイルフォーマット（←MS ゴシック，9 pt）

原稿は本執筆要綱の書式に従い作成し，Adobe PDF フォーマットで提出する．原則，これ以外のファイル形式は受理しない．なお，原稿を MS-Word で作成する場合は，シンポジウムホームページよりサンプルファイル（MS-Word）をダウンロードして上書きして作成することを推奨する．新たにファイルを作成する場合は以下に示す書式に設定する．

2.2 用紙およびフォント

用紙・頁数は A4 版用紙，3 頁とし，余白を以下のように設定する．

上余白： 21 mm，　下余白： 23 mm
左余白： 20 mm，　右余白： 20 mm

本文は 2 段組とし，段間隔は 8 mm（段幅 81 mm），25 文字×52 行になるようにする．

原稿の標準フォントは「和文：明朝体，英文：Times New Roman, Symbol」，もしくは，上記のフォントに準じたフォントとする．

2.3 書式設定方法（MS-Word の場合）

「ファイル－ページ設定」メニューを選び、「設定対象」を文書全体にする．「余白」タブを開き，本執筆要綱に従って余白を設定する（上 21 mm，下 23 mm，左 20 mm，右 20 mm）．「文字数と行数」タブを開き，「フォントの設定」をクリックする．和文・英文フォントをそれぞれ「MS-明朝」・「Times New Roman」にし，文字サイズを 9 pt に設定する．次に行数を 52 行に設定する．

3. タイトルページ

3.1 論文題目

第 1 ページの用紙上端に 41 mm（上余白からは 20 mm）の空白をあけ，MS ゴシック 12 pt，中央揃えで邦文題目を記入する．1 行あけて英文題目を Times New Roman, 11 pt, 大文字（Bold），中央揃えで記入する．

3.2 著者名・連絡先

英文題目の下 1 行あけて，明朝体 10 pt，中央揃えで著者名を記入する．氏名の後に所属機関の略称を括弧でくくって記載する．複数著者の場合は全角スペースで区切る．

2 行にまたがる場合は，シングルスペースで改行する．講演者名の前に○印をつける．

改行し，英文による著者名を Times New Roman 10 pt,

中央揃えで記入する．姓(Family Name)は，大文字のみを用いて表示する．連名の場合，講演者名の前に○印をつけ，各著者名はカンマ（,）で区切る．次の行に英文による所属，住所，その下に代表者氏名および電子メールアドレスを記入する．

3.3 英文アブストラクト

1 行あけて英文アブストラクトを 15～20 行，Times New Roman 9 pt，シングルスペースで記入する．

4. 本文

4.1 見出し

見出しは，「2. ○○○」（節），「2.1 △△△」（項）のように通し番号をつけ，左揃え，インデントなし，それぞれ MS ゴシック 10 pt，MS ゴシック 9 pt で記入する．節の見出しは，前の本文の後に 1 行あける．

4.2 数式

数式は以下の例のように，10 pt，中央近くにインデントし，式番号を右揃えで記入する．上付き・下付き文字は 6 pt とする．数式は Office Math で作成する場合は Latin Modern Math などのフォントを使用するのが望ましい．

$$\mu' = \mu_0/(1-\alpha p_v) \tag{1}$$

式中では，分数はなるべく a / b のような行形式にする．本文中で式を参照する場合は，式(1) のように記述する．

4.3 図表

図表は必ず本文で参照し，該当箇所の近くに配置する．本文中で図表を引用する場合には，図 1 や表 1 のように記述する．

Table 1 Empirical equation of suspensions

Author	Year	Expression
Hatschek	1911	$\mu_s = \dfrac{\mu_0}{1-p_v^{1/3}}$
Taylor	1932	$\mu_r = \mu_s/\mu_0 = 1 + fp_v$

図は見やすく大きめのものを用意し，グレースケールやカラー画像（文字）は印刷時に不鮮明にならないよう注意して使用する．

図表中の文字・語句はすべて英語で記入し，本文の文字と同程度の大きさにする．図および表のキャプションは 9 pt の英文で記入する．説明句が複数行にまたがる場合はシングルスペースで改行する． 図 1 および表 1 に図表記載の例を示す．

5. 記号

記号は，本文終了後 1 行あけ，10 pt のボールド体で **NOMENCLATURE** と標記して改行し，10 pt 文字，シングルスペースで記号説明を英文で列記する．用紙に余裕がない場合は省略してもかまわないが，その場合は必ず本文中で記号・単位を説明する．参考例を本執筆要綱の後に示す．

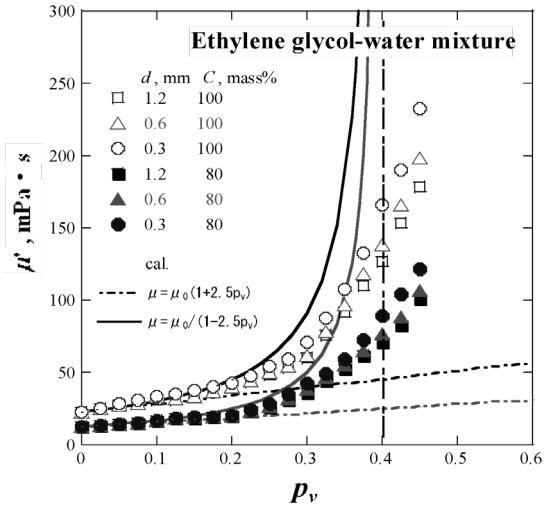

Fig. 1 Relationship between the effective viscosity and the fraction of solid phase.

6. 参考文献

本文中で文献を引用する際は，[1]，[2,3]，または[4-6]のように通し番号を付けて引用する．

参考文献リストは記号表の後に 1 行あけ，10 pt ボールド体で **REFERENCE(S)** と標記して改行し，番号順にシングルスペースで列記する．

和文の文献は英訳して記載する．文献の著者が複数の場合は，可能な限り著者全員の名を記載する．著者名の間の and は省略してもよい．また，論文題目も記載するのが望ましい．雑誌名を省略標記するときは，Chemical Abstract 誌による（または ISO 833 に準拠する）こと．

本執筆要綱の最後に，雑誌[1]，書籍[2]，予稿集[3]の場合の参考文献リストの例を示す．

NOMENCLATURE

D : diameter, mm
C : concentration, %
μ' : effective viscosity, Pa・s
p_v : solid phase volume fraction

REFERENCES

[1] A.Einstein, “A New Determination of Molecular Dimensions”, Ann. Phys.,19(1906), 289.

[2] S.E.Charm, G.S.Kurland, “Blood Rheology in Cardiovascular Fluid Dynamics”, Vol.2, Chap.15, Academic Press, London (1972), 157-203.

[3] T.Yokohama, H.Fukuzawa, Proc.31st Jpn. Symp.Thermophys. Prop., Fukuoka (2010), A233.